

学校 習志野市教育委員会 教育だより



<http://www.city.narashino.lg.jp/kosodate/kyouiku/gakkyodayori.html>

習志野市鷺沼 2-1-1 電話 047-451-1132

平成 29 年 11 月 22 日発行 NO. 89

屋敷幼稚園：「健康な心と体の育成を促す環境のあり方」
年少児 3びきのこぶたの世界で遊ぼう



鷺沼小：「知的好奇心あふれる授業の創造」
3年理科 ふしぎがいっぱい磁石の世界



新学習指導要領 新教育要領を見据えて ～未来を担う子ども達のために～



第四中：「確かな学力の育成」
3年技術 プログラムによる計測・制御

新学習指導要領・新教育要領が公示され、来年度から幼稚園は完全実施、小学校は移行期間となります。第89号は新学習指導要領・新教育要領をキーワードに、市立幼・小・中学校の公開研究会、実践発表、学校内の取り組み等について特集します。

第89号 目次

- ◆主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善…2・3
(公開研究会の授業実践・学力向上交流会)
- ◆新学習指導要領・新教育要領を見据えて …4
(外国語公開・幼稚園公開・道徳授業実践)
- ◆がんばる習志野っ子 …5
- ◆吹奏楽部の活躍(習志野高校・実花小学校) …6

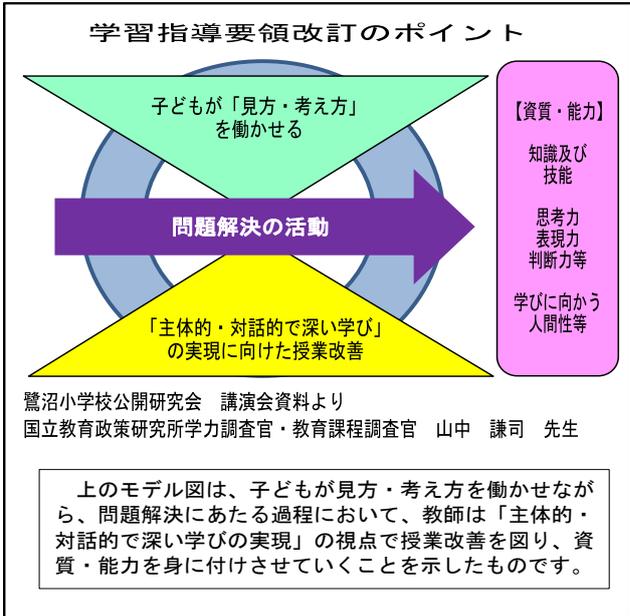
主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善

平成29年3月31日、新学習指導要領が公示され、総則においては、身に付けるべき「資質・能力」が示されました。

今回の改訂では、これからの時代に求められる「資質・能力」を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようになるため、子ども達が「どのように学ぶか」という学びの質を重視した改善が求められました。「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善です。教員が「どのように授業を組み立てるか」（授業構成）「どのように教えるか」（指導技術）とともに、これまで以上に子どもの学びを見つめ直していくことが大切になってきます。

一方、総則によると「これまでとは全く異なる指導方法を導入しなくてはならないと捉える必要はない」とされています。実際のところ、各学校においては興味・関心を高め、意欲を喚起する取り組みや、学び合い、振り返りなど、これまでの学習指導において数々の実践を積み上げてきています。これまでの成果と課題を整理した上で、これから各学校で取り組んでいくことを明確にしていくことが大切です。

さて、今年度は、市立幼・小・中学校11校1園で公開研究会が行われました。ここでは、新学習指導要領のキーワード「主体的・対話的で深い学び」の視点から屋敷小学校、大久保小学校、東習志野小学校の公開研究会の授業実践を紹介します。



屋敷小学校 体育 「健やかな心と体を育むために」～学び合いを通して～

【授業者】 6年2組 遠藤 弓子 教諭 『未来へつながれ東京オリンピック～群を生かして動こう～』

八重桜が咲く様子をどのように表現するかという課題がグループで共有され、活発に話し合う姿が見られました。



目線や広がる方向を工夫する子ども達



主体的な学び

【主な手立て】

- ・ 計画カードによる明確な課題意識
- ・ 振り返りの場面の設定
- ・ 獲得したバリエーションのある動き

計画カードや振り返りカードが活用され、グループごとに明確なめあてをもつことができたり、次時へのつながりを意識したりできるなど、主体的に学ぶための手立てとして有効に働いていました。また、子ども達が必要と感じた時に、グループ同士の見合いの場を設けたことは主体的な学びを促す手立てとして、可能性を大いに感じます。今後は、見てほしい時、見てほしい所を子ども達自ら判断し、学び合う姿が見られることを期待します。

大久保小学校 国語 「主体的・対話的で深い学びを通して思考力を育む国語科学習」

【授業者】6年3組 小松代 絵里 教諭 『きつねの窓』

窓に映った風景がどのような意味をもつかを考え、僕の過去への思いを捉える授業が展開されました。
窓に映ったものは、ぼくにとって である。

一人一人、明確な考えをもち、論点が整理された対話につなげるために、 に入る言葉とその根拠を十分な時間を与えノートに書かせます。（ブラックボックスの活用）子ども達



活発に意見を交わす子ども達

は、入れた言葉をペアや一斉で紹介し合い、教師は、個々の考えの差異やつながりがわかるように板書を工夫します。（個々の読みの可視化）次に、なぜその言葉を入れたのか、その根拠について話し合いました。同じ立場の子ども同士、さらには違う立場同士と進み、活発に考えを交流させていました。一斉の場では、教師は子ども達の発言を受け止めた上で、適切に話し合いの視点を与え、読みを深めていきました。

対話を充実させ読みを深める

【主な手立て】

- ・ブラックボックスの活用
- ・対話のくり返し（ペア→小集団→一斉）
- ・個々の読みの可視化

東習志野小学校 理科 「生き生きと活動する子どもの学びを育てる」

【授業者】3年1組 高橋 優樹 教諭 『磁石のふしぎを調べよう』

教師による演示や過去の実験を想起させる写真から、磁石につけた鉄くぎは磁石になるだろうか？という問いが共有され、実験方法や検証方法を話し合った後、確かめる実験が始まりました。

6班の活動の様子

子ども達は、クリップやマグチップが引き付けられる様子を確認し、鉄くぎは磁化されたと結論づけました。さらに、「磁石になったのだからN極とS極があり、磁石になった鉄くぎどうしを近づけたら、引きつけ合ったり、退け合ったりするだろう」と自ら仮説を立て、新たな実験に取り組みました。

新たな問いを見出す子ども達



- ・2本のくぎ磁石を近づけてみよう
- ・退け合っているよ！
- ・あれ？さっきは、できたのに。おかしいな？
- ・磁石の力がよわくなったのかな？

学力向上交流会「主体的・対話的で深い学び」の追究

10月27日、市川市の中山小学校と第四中学校を会場に学力向上交流会が開催されました。この交流会は、学習指導要領に則った様々な施策の成果の報告や研究提案がなされるなど、学力向上のための重要な研修機会となっています。この交流会で藤崎小学校の稗田隆二教諭が社会科の提案を行いました。稗田教諭は、明治時代の風刺画の面白さを手がかりに、政府の政策を子どもなりに評価させ、主に思考・判断・表現する力を伸ばす授業実践を提案しました。参観者から、単元構成の工夫やベースとなる知識の習得法などの質問が出るなど、研修を深めることができました。稗田教諭は「ノートを通して子どもの疑問や考えを常に把握したことが奏功した研究実践です。子ども達が進んで学ぶ意識を育てることを願っての授業実践を提案できました。」と振り返っていました。



外国語活動・外国語科

平成30年度より小学校3, 4年生の外国語活動、5, 6年生の外国語科がスタートします。向山小学校の公開研究会では、1～6年生で授業が行われました。

子ども達に自信をつけさせることで、積極的なコミュニケーションが図れると考え、3年生では、友達のいいところを見つけ、「ほめほめ言葉」で伝える、自作クイズを作成して出題するなど、意欲と必要感をもたせる指導の工夫が随所に見られました。

また、ミニ研修を毎週行うなど、無理なく教員の英語力向上の取り組みも行っているとのこと。先生方が、自信をもって指導している姿がとても印象的でした。こうした取り組みを市内に広めていければと感じました。



向山小学校

新 学習指導要領・教育要領を見据えて

授業の達人に実践をもとにした話をうかがいました。

考え議論する道徳

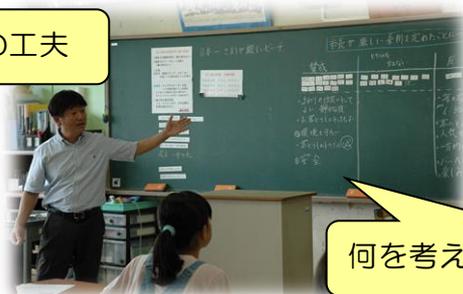
主幹教諭 蕨 純夫

昨年のリオデジャネイロオリンピック、馬場馬術競技で、メダルを期待されながら、競技直前に棄権したオランダの女性騎手が、世界中から称賛を浴びました。愛馬は3日前に高熱を出し、当日朝には下がっていたものの、いつもの力が感じられなかったそうです。

この話をぜひ道徳の授業で扱いたいと思いましたが、ただそのエピソードをそのまま子どもに伝えただけでは、「へー、そうなんだ。」で終わってしまいます。そこで、当日、棄権直前までの経緯を伝え、「みんなはこの騎手にどうしてほしい？」と投げかけることにしました。「だめでも全力を尽くすことが大切」「馬の健康を第一に考えれば、棄権すべき」という2つの考え(価値)がぶつかりました。どこで何を考え、話し合わせたいかを明確にすれば、

授業の組み立ても自ずと決まってきます。来年度からは道徳が教科化され、教科書も配布されます。提示の仕方、発問の組み立てを工夫することで、子どもが意欲的に話し合うことができそうです。

発問の工夫



何を考え、話し合わせるのか

実籾小学校

屋敷幼稚園



新幼稚園教育要領では、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿が明記され、その筆頭に「健康な心と体」があります。

屋敷幼稚園では、「健康な心と体の育成を促す環境のあり方～自分ができる」と思える子どもを育てる環境づくり(体を動かす遊びを通して)～をテーマに公開研究会を開催しました。幼児の主体性を引き出すための環境構成や言葉かけ等の援助の工夫により、園児が生き生きと体を動かしたり繰り返しチャレンジしたり友達と一緒に集団遊びに取り組んだりする姿が見られました。教師の役割や教材、教具の工夫について学び合い、「生きる力」の基礎を培う幼児期の教育の重要性を再認識した公開研究会となりました。

子ども達に夢や希望を～小学校編～ オリンピック・パラリンピック教育推進校

東京オリンピック・パラリンピックが2020年に開催されます。世界中のアスリートが競い合う姿を通し、努力することの尊さなどを学ぶきっかけとなります。また様々な障がいがあるアスリートが創意工夫を凝らして限界に挑むパラリンピックにおいては、多様性を認め、誰もが個性や能力を發揮し、活躍できる機会が与えられており、共生社会の重要性を学ぶきっかけとなります。生涯を通じてスポーツに親しみ、楽しさや感動を分かち合う気持ちや他者を理解しようとする気持ちを育て、子ども達の心に遺産(レガシー)を残していくいい機会です。

習志野市では、秋津小学校、香澄小学校・第七中学校が千葉県教育委員会より平成29～30年度オリンピック・パラリンピック教育推進校に指定されています。



秋津小学校 スポーツ義足体験

困難に立ち向かい努力する姿は、子ども達の心に響きました。

香澄小学校 3×3バスケットボール



新種目にチャレンジしました。習高生のプレーに大興奮でした。

がんばる 習志野っ子

平成29年度薬物乱用防止標語【小学生の部】

佳作：谷津小学校

6年 淀川 花帆さん

「やりません」 心を守る 合言葉

平成29年度千葉県児童生徒・教職員 科学作品展

★科学論文の部(小学校)

【優秀賞】「クモの巣 パート2」

津田沼小学校3年 笹田 侑杜さん

【優良賞】「カタツムリとの研究

ナメクジだっておもしろい」

谷津小学校3年 國松 芙紀さん

★科学工夫作品の部(小学校)

【優秀賞】「映写機」

鷺沼小学校4年 廣瀬 美優さん

【優良賞】「かみなりあめ」

屋敷小学校1年 山崎 蓮希さん

★科学論文の部(中学校)

【優良賞】「葉脈の不思議～葉脈標本の製作～」

第三中学校1年 堀口 碧月さん

習志野市総合教育展



11月1日～11月7日に開催されました。

約2000点の作品が展示され、述べ5769人の参観者があり、大盛況でした。



『全日本吹奏楽コンクール』

金賞 取りました！！

習志野市立習志野高等学校 吹奏楽部3年 榎 かぐや

今年、私達は「目指すはてっぺん」を合い言葉にして、「温故知新」をテーマに活動してきました。歌劇「イーゴリ公」は四年前にも先輩方が演奏され金賞を受賞している曲であるため、初めはそのプレッシャーもあり上手く行かないことが多くありました。県大会や東関東大会では、自分たちの納得の行く演奏が出来ず悩むこともありました。そのたびにミーティングを重ね、具体的に『この先何を変えるのか』と言うことを話し合いました。仲間とは何度もぶつかり合い、先生からは幾度も諭されながら頑張ってきました。習志野高校では全国大会前には合唱にも意欲的に取り組みます。理由は、習高サウンドは歌が基本となっているからです。

そして迎えた全国大会では、メンバー全員が「楽しんでやろう」という気持ちに達していました。これまでの自分たちに「間違いはない」という自信に満ちた12分間でした。とても楽しく、そして一番充実した演奏が出来たと思います。今は、金賞をいただいたという喜びと同時に、ここまでやってきて本当に良かったという達成感を感じています。



習高サウンド



実花小学校

吹奏楽部

東日本学校吹奏楽大会

金賞

吹奏楽部顧問

村山 和幸 教諭

東日本大会のステージで子ども達は、心を込めて精一杯の演奏ができました。このような素晴らしいステージに立つことができたのは、たくさんの方々のおかげです。このように素晴らしいステージに立つことができたのは、たくさんの方々のおかげです。このように素晴らしいステージに立つことができたのは、たくさんの方々のおかげです。

という部の伝統をつないでくださった先輩方の努力のおかげです。2年連続で金賞をいただくことができ、子ども達は大きな感動と自信を得ることができました。これからも「心」を大切に、一步一步努力を続けていきたいと思っています。



心を大切に

編集後記 「文武両道」これは、習志野の教育を表していると感じました。市内では、公開研究会が行われ、スポーツも盛ん！そして音楽のまち習志野ということで、次々に届くコンクール金賞の知らせ。取材活動の中で、習志野っ子の活躍がたくさん見られました。子ども達が、笑顔で生き生きと何かに夢中になっている姿は、私たちのエネルギー源になります。